

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400214		
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームいずみ (ユニット蘭)		
所在地	秋田県大館市泉町9番19号 泉町地域ふくしセンター 2階		
自己評価作成日	平成29年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気の中で、家族地域との絆を大切に自分らしく生き生きと安心した暮らしを寄り添い支援を行っている。</li> <li>・病気等の早期発見、早期対応に努め家族と連携を図り健康的な生活を維持できるよう努めている。</li> <li>・日々生活する中で余暇活動を大切に、一人一人が興味あるものや出来る事を見だし、活気あり笑いの多い生活になるよう取り組んでいる。</li> <li>・ユニット間を開放し交流を図り、過ごしやすい場、気晴らしの出来る場になっている。</li> <li>・職員は常に利用者が不安にならないように寄り添い安全に生活できるよう支援している。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は「家庭的な雰囲気」「家族と地域の絆」「自分らしく生き生きと」「安心した暮らしに寄り添う」といったキーワードに基づき、常に利用者へ寄り添い、一人ひとりの尊厳や思いを大切にされた支援を提供している。また、管理者の強いリーダーシップにより「利用者視点」を常に考えた支援を全職員が心がけており、支援させていただき感謝の気持ちを大切にされた取り組みが行われている。</p> <p>人材育成と職員の能力開発を目的とした業務遂行能力評価に関しては、ホームが所属する法人全体で取り組んでおり、ホームで勤務する職員の意識向上に繋がっている。</p> <p>職員研修については、泉町地域ふくしセンター全体での研修の他、ホーム独自で利用者の尊厳や介護技術の習得研修等、多岐にわたる研修を実施しており、利用者へのより良い支援に結びついている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・GHの理念を念頭に一人一人の支援を意識して実践している。	ホームの理念が全職員に浸透しており、職員個々が支援をする上で常に意識づけできるよう取り組んでいる。また、管理者が職員に対して理念の大切さをアドバイスをする等、前向きに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・センター行事、避難訓練等で交流している。(夏祭り、クリーンナップ、近所の保育所 他)	泉町地域ふくしセンターとして地域住民との交流が盛んであり、地域住民からも福祉に関する相談等を受け、地域にある福祉施設の役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	2か月に1回GH運営推進会議に地域の方にも参加してもらい理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・委員の方から「口の体操」「認知診断」パンフを提供してもらい余暇活動に生かしている。	運営推進会議では、ホームでの活動を報告し、参加者からは、利用者の介護や認知症に関するアドバイスを受け、その内容が即実践に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にGH運営推進会議に参加してもらい情報交換し協力を得てサービスに向けている。(待機状況報告、生活保護利用の状況報告)	大館市福祉部長寿課職員や地域包括支援センター職員との連携強化を図っており、ホーム運営上のアドバイスを受けたり、気兼ねなく担当課職員とも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・本人の気持ちを大切にし意思に沿うケアを心がけ個々の状態に合わせ無理のかからない支援をしている。	身体拘束に係るマニュアルが整備されており、全職員が共通認識の下、業務遂行している。また、利用者の尊厳や身体拘束に係る研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修などを通し学ぶ機会を設け職員同士が処遇するうえで注意し合いながら虐待の無い支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修報告書を回覧で見て話し合う機会を持ち、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居や退居時に施設長・補佐の立ち合いで管理者が説明し理解してもらい契約書にサインしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の代表の方にもGH運営推進会議で意見をもらい情報交換に努めている。2ヶ月毎GH広報を家族に郵送してお知らせしている。	毎月、利用者家族に対して、担当職員から利用者個々の状況が記入された直筆の手紙が送付されており、家族からも大変喜ばれている。また、利用者の家族から意見等あった場合は、その内容を職員間で共有し、日々の実践に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・朝、夕の申し送り意見交換実施。センター内で職員の意見をアンケートで集めたり、会議などで意見交換している。	管理者自らが利用者支援を行う現場に入り、介護に関する職員の小さな気づきを大切に取扱い、ミーティング等を通して実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年年度末職員個々が業務遂行能力効果を実施し後施設長と面談したりしている。・各委員会や係を設けやりがいや向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・「人事考課」の自己評価や個人面談したりと法人内外のその人に合った研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・各種の福祉の研修に参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・コミュニケーションを大切にし、関わりの中で気づきを元に安心出来る様配慮している。入居数日間は観察重視期間として独自の24時間シートを活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初回面談でお話したことを念頭に入れた上で支援し面会や近況報告(月/1の手紙)で安心できるよう報告している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な雰囲気の中で利用者の気持ちを大切にし関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月1回の手紙での報告と、場合によっては面会時に必要なことを伝え利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいる。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などいつでも面会しやすい環境作り(居室で過ごしてもらうなど)をしたり外出されたりと自由に生活してもらっている。	本人が今まで利用してきた病院等は、本人の希望により継続して利用できるよう支援している。また、ホームでは面会等を積極的に受け入れており、月20回以上の面会があり、利用者の楽しみに繋がっている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時、14時、16時の水分補給時は、同じ場所に集まり会話・余暇活動等行い楽しいひと時を過ごしている		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者や家族をフォローし相談などにも応じたり、居宅介護支援事業所に繋いだり家族の心配を減らせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の会話の中から気持ちを受け入れ個々の支援会議で話あい実践している。	常に利用者に寄り添い、利用者の思いを汲み取る事の大切さを理解し、職員の共通認識のもと、支援をしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に聞き取りを行いその人の特徴をつかんで本人が出来ることの支援をしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活する中で一人一人の状態の変化を記録しながら日誌や申し送り等で共有し把握している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人と家族と話し合いその方に合った介護計画を作成し家人から同意書を頂き支援している	事業所独自のケアチェック表を活用した介護計画を作成しており、職員間共通認識のもと、より良い介護に結びつけている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別に1か月分のまとめを月末に行っており、状態により計画の見直しも行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の床屋など地域資源を利用しながら生活している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在宅から通っていた病院を継続したり、薬局利用も薬の用途を確認したりと連携を図り、本人家族の心配無いよう支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医師との連携強化を図り、利用者が健康で生活することができるよう支援している。また、かかりつけ薬局との関係も強化されており、薬袋に関する工夫や内服薬の成分等についてもアドバイス等を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・気になることがあれば、その都度報告し相談している。又、緊急時はセンターの医務にも報告、連絡、相談している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は面会を多くし病院との情報交換、相談に努めている。家族にも立ち会って貰い協力頂いている。病院の相談室とも連携を取っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・GHで行えるケアについて、その都度説明し理解してもらっている。午前、午後のバイタル測定を実施し状態観察する	重度化及び看取り等に関しては、かかりつけ医師や当法人関連施設との連携強化を図り、利用者がより良い医療サービスを受けながら安心した生活を送ることが出来るよう支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の用途に応じてマニュアルがあり常に掲示し利用している。センター内の応急処置研修や学習会で身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・センター職員も加わりながら定期的に訓練を行っている。又、地域住民の協力も得ている。	泉町地域ふくしセンターとしての各種災害想定避難訓練を実施している他、災害時の非常用物品と非常時の食料を確保している。また、地域にある他の社会福祉施設と「災害支援ネットワーク」を構築し、連携強化を図っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として失礼の無い行動を心がけ対応している。	職員は利用者一人ひとりの人権の尊重に配慮した支援を心がけている。また、利用者の尊厳やプライバシーに関する研修に積極的に取り組んでおり、職員が常に意識しながら支援をしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の生活の中で本人の思いや希望を表したり実現できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個々の行動を理解しペースに合わせて本人が話しやすく希望を聞き出せるようにし答えてあげるよう取り組んでいる。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・行事の際は薄化粧をしたり衣類などは本人に選んでもらい満足がいくようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを手伝ってもらい好みを聞いたり役割をつくることで楽しみをもっている。嗜好アンケートも実行している。	利用者の食事に関しては、泉町地域ふくしセンター内にあるレストランから提供されているが、配膳や後片付け等、利用者と協力しながら対応している。また、利用者の力を活かした「おやつ作り」等を行い、楽しく食事できるよう支援している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の水分/食事摂取量を記録している。又水分摂取が少ない時は本人の好みの物を購入し提供する支援をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員付ききりで一人一人の口腔ケアを行っており状態や本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の行動を理解しペースに合わせている。身体状態に合わせた介助を行い自立への声掛けと本人の状態です誘導をしている。排泄記録もしている。	日頃から活用している排泄チェック表は、職員の気付きによる工夫が盛り込まれており、利用者個々の状態把握が確実にできるようになっている。また、排泄に関しては利用者個々の身体能力や排泄状況に応じた自立支援を念頭に置き、支援の充実を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分を多めにとってもらい運動や散歩、身体を動かす事で便秘予防と下肢低下防止をしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望をできる限り取り入れ身体状況に合わせた介助を行っている。転倒防止に脱衣室の床の張り替えを行っている。	利用者個々の状態及び希望に応じた入浴を実施している。また、入浴時には利用者が好む音楽を流したり、近隣の温泉に出かける等、利用者が安心して入浴できる工夫をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は自由にとって貰っているが夜間良眠できるように日中の余暇活動への参加や関わりを多くしたり、ホットミルク、足浴を実施し安眠を促す支援をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・家族にも月一で報告添えている。状態に合わせて医師の指示通りの服薬を行い誤薬の無いように三重の確認をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力にあわせた役割を見つけメリハリのある生活を送って貰っている。できない事があつたら一緒にいきコミュニケーションを図っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れその日の状態に合わせて外出している。他利用者と一緒に出かけることによって自然に会話が多くなり、気分転換に繋がっている。	利用者個々の希望により、車でのドライブや散歩、センター内のレストラン利用等、職員が利用者に常に寄り添った外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って買い物をする機会をつくり、レジで本人が支払うこともあり見守り支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者から希望があればその方に合った方法で手紙、電話したりと支援出来ている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎月季節にあった掲示物や花を飾ったり明るい雰囲気作りをしている。	当ホームは泉町地域ふくしセンターの2階に位置しており、柔らかな日差しがたっぷり注がれ見晴らしの良い環境となっている。また、室内の湿度は数台の加湿器が作動し、より良い生活空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・個々の性格や言動を把握いつでも自由に過ごせる空間を作りをし、会話、笑顔も増えている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自分の家で使用していた使い慣れた家具を持参して本人が居心地良く過ごせる様に支援している。	利用者の居室は、利用者本人がホーム利用前まで自宅等で使用していた家具が持ち込まれている。また、家族やホーム行事の写真等も飾られており、居心地の良い空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・日常生活の中で個々の希望のもと出来ることを見つけて一緒に実施している。個々の行動に制限をかけないようにつまづくような物を置かないようにしている。		